

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成27年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(4/9)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
森林総合産業特区 (下川町)	正	3.7	3.7  進捗度 ・素材供給量 66%  ・林業・林産業生産額 94%  ・林業・林産業従事者数 83%  ・森林整備に係る木材生産効率 39%  ・林道網整備 105%  ・木質バイオマス原料量 106%	3.3  規制の特例等 ・林業機械の搬送時における高さ制限 等  財政支援等 ・高密度連絡路網整備事業 等  地域独自の取組 ・私有林整備支援事業  ・造林システム革新事業  ・林業・林産業振興事業 等	3.8	<p>・林道網の整備や木質バイオマス原材料については順調な成果となっており、林業・林産業生産額もやや目標を下回っているものの、金額の伸びを考慮すれば、評価として順調の範囲内と考えられる。</p> <p>・路網整備を着実に進めるとともに、町独自予算でFSC森林認証林を拡大させるなど、当該事業に係る町の取組は高く評価できる。</p> <p>・生産性の向上を犠牲にして従事者数が増えている可能性を排除することができない。</p> <p>・素材供給量、従事者数、生産効率は、相互に関連し合っている。不成績の根本問題は、素材供給量の少なさであり、高性能機械を導入した効果が十分に発揮されていないということでもある。補助金が減らされて高性能機械による生産効率化によって素材生産の増加が達成できる、という形が望ましい。</p> <p>・素材供給量について、町内の需要だけでは賅いきれていないと思料される。市場や売先の分析を行った方がよい。</p> <p>・林業・林産業従事者数は、生産額や生産量から算出するのではなく、実数を用いる方がよい。</p>

※「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)